

Title: 「潜水するひつじ」



Lines of sight

～それぞれのアジアへの視線～



高橋 知佳
1989年生まれ。他称・じゃじゃ馬。ついに本の世界から現実世界へと飛び込みます。

● 最近のエントリー

- ☑ 散らばる、5名
(2009.08.31)
- ☑ 中国～マレーシア、一区切り。
(2009.08.18)
- ☑ 香格里拉、雨に唄えば編
(2009.08.05)
- ☑ はじめて五体倒地をした日
(2009.08.05)

● アーカイブ

- ☑ 2009年10月
- ☑ 2009年09月
- ☑ 2009年08月
- ☑ 2009年07月
- ☑ 2009年06月
- ☑ 2009年05月
- ☑ 2009年04月
- ☑ 2009年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future



RSS 2.0

潜水するひつじ > 2009年08月 アーカイブ

09.08.31

散らばる、5名

[Tweet](#)[Check](#)

思えばFW後半戦、香格里拉以外ではいつも横には熊倉局長がいました。



局長の引率もマレーシアに着いたことで終わりを迎え、別れの朝。
予定通りの時間に起きられず、眼鏡でご挨拶という失態をおかす私。
あちゃー。



そんなことがありつつも、サプライズケーキは無事にご開帳。
約4ヶ月の間、お世話になりました。本当に...
局長とのふたり旅はヤギの断頭やら、混沌のコルカタ駅やら、ナシ族パーティやら、思い返すほどに、濃いです。
また日本で思い出話や文学話でも。
(八十日間世界一周、読み終わりましたよ！)

そしてあれよあれよと2回目のスクーリングも終わり、私のフリー期間撮影地は、ネパール・インドに決まりました。
ご配慮して下さった皆さま、ありがとうございます。

いってきます！

カテゴリ:

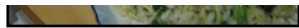
post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.08.31 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

潜水するひつじ > 2009年08月 アーカイブ

09.08.18

中国～マレーシア、一区切り。

[Tweet](#)[Check](#)



出国前、旅のプランニングがぎりぎりまで決まらなかった国が、中国。
理由は単純。中国に全く魅力を感じていなかったから。
ただ中国の古典文学は好きなので、
「この際テーマは無視して赤壁でも観に行こうかなあ」
なんて考えたけれど、なんか映画やっちゃってるし、
いま行くともミハーみたいだしー、（いや実際周瑜に対してはミハーみたいなもんだけど）、
そんな理由で、名前にそのものがある香格里拉をメインに
雲南省を回ることにした私。

それでもやっぱり中国はなんとなく億劫で、インドではよく、
「中国行くのやめにして、その分インドにいたいよー」
と、中国大好きなゆうきちゃんにまでこぼしたりしていた。

きっとこのFW以外ではもう、この国に来ることはないだろう。
そう思って入国したのに、出国したいま、
出会った人達の顔が、彼らとの思い出が、すごく懐かしい恋しい。
「ああ、雲南省に帰りたい」
マレーシアの暑さのせいもあって、恋しさ倍増。
やれやれ、なんてゲンキンなんだろう。

「高橋は、行けば結局楽しんでと思うぞ」
出国前にそう言ってくれたのは、ゼミ担当の飯塚先生。
(これは別に中国に限ってではなく、FW全体に対しての言葉だったけれど。)
「はい、楽しみました！」
と、明日施設に来る先生には胸をはって言えると思う。

余談。中国では最後にこんなチョコを買った。



そういえば雲南省の人は東京、大阪の次になぜか北海道の名前を挙げる人が多かった。
だからこそ、あやかっただろうか。



中身は似ても似つかないけれど。

09.08.05

香格里拉、雨に唄えば編

[Tweet](#)

[Check](#)

「おまえ、日本人か」
「うん。あなたはチベット族？」
「そうだよ」

そのドライバーはNo Englishだったため、会話らしい会話はこれだけだった。
この日は香格里拉の郊外まで大自然を撮りに行くため、旅行会社にかけあって車の手配をしてもらっていた。

長距離の運転をしてもらうとなると、ドライバーと言葉が通じないのはちょっと気まずい空気が流れるものだけれども。幸い、彼はそうお喋り好きでもなかったようで、時々ジェスチャーだけで十分にコミュニケーションがとれているような感覚を持つことができた。

車はぐいぐいと山道を登り、いつしか霧の中へ。



ただでさえ危険なのに、タッタカタと黒ヤギが時々目の前を横切っていく。

「おい！ ヤーギイ！」

もはや因縁の、ヤギ×私。

これが白ヤギだったらリアルに大事故だぞと思っていたら、



白ヤギさんたら、崖のくぼみで雨宿り。
控えめでよろしい！

そんなこんなで3時間半後、到着したのはこんなところ。



トンパ教の聖地、白水台。

石灰でできたこの棚田は、成長する花だとか、仙女の鏡台だとも呼ばれていて、

「うん、ここは美しい！」

と大満足しながらシャッターを切る私。

しかしただでさえ雨量の多い雲南省の夏の気候と私の雨女力が合わさって、
気付けば辺りは土砂降りに。

雨水がしたたる石灰は滑りやすく、下は崖。

ドライバーさんに傘をさしてもらいながら、ヒヤヒヤ。

しかもどんなにがんばってもカメラには雨が当たって、
いつ壊れてもおかしくないぞ、とヒヤヒヤ。

ヒヤヒヤ。

ヒヤヒヤ。...ズボッ！

「ひゃお！！！」

石灰のくぼみにできた水たまりに、片足が沈んで膝下がずぶ濡れに。
あーあ、と思っていたら、ドライバーさんが自分のスニーカーを指差している。
「あ、メッシュ加工じゃんか！」
足をつっ込むまでもなく、彼のスニーカー内が悲惨だろうことは容易に想像できた。
もはや、ふたりして笑うしかなかった。

写真をぼしぼし撮っては、「よし！」と言って次のポイントに移動する私に付き添っているうちに、
彼はその言葉を覚えてらしく、
「よし！ よーし、よし！」
と大雨に似合わないニコニコ顔で言う。
「よし？」
「うん、よし！」
使い方も正しいことが、私をおおいに喜ばせた。

そんなこんなで、撮影終了。
「よし！」
と言って、下を指差す私。“降り始めましょう。”
「よし」
白水台から麓の村までは、木の階段で繋がっている。
行きはフレームの中に階段が映り込むのを嫌って、あえて使わずに岩肌を登ったけれど
下りはさすがに危険すぎるので、大人しく階段使用。
しかし一箇所、板が腐っている段に見事に足をつけ、落下寸前になる私。
「あざあああ！」
色気のない悲鳴をあげる。
「小心、小心...ぶぶツ」
心配しながらも笑いをこぼすドライバー。
咄囃の時に、きゃあと叫ぶ練習をしようかと思った瞬間だった。



放った瞬間に、見事に曇ったフロントガラス。
霧もちろん立ちこめたままで、行きよりも増した危険度。

ヤギも攻撃力増。



寒さも相まってもはやハイになり、大音量で音楽を流しながら
大声に歌うドライバー。
私も手ぬぐいでカメラを拭きながら、キャッキヤ、キャッキヤ。

チベット族のヒッチハイカーもばんばん乗せて、
ワゴン車の中はいつしかぎゅうぎゅうに。

ようやく香格里拉の街まで戻った時、時計を見ると午後6時だった。
出発したのが午前9時。
片道が5時間以下だと、なんだかご近所な気がしてしまうのは
FW生の特徴のように思う。

とりあえず、あんなカーブとヤギだらけの道を無事に切り抜けてくれたドライバーさんに、
「よし、グッジョブ☆」
と言いたい。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.08.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(4\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年08月 アーカイブ

はじめて五体倒地をした日

[Tweet](#)

[Check](#)

麗江でトンパ文字の辞書を物色している時、
中国語ペラペラなロシア人が、やはり辞書を物色していた。

「きみは月にいるとする。月には湖があって、きみはその中に座っている。
だけど月とは、なに？」

どうにも強めないことを話す人だったので、とても印象に残っていた。
そんな彼と、香格里拉で再会した。

「あれー？ なにやってんの？」
「おトモコ！ きみこそ！」
（私の名前はどの国の人も発音しづららしく、みんなトモコ、トメカ、ホモカとしか言ってくれない）

よくよく話を聞くと彼は中国に住んでいるらしく、傍らには漢民族の奥さんが控えていた。
彼が中国語堪能な分、奥さんは英語が堪能で、
そんなグローバル夫婦は、根っからの仏教徒だった。
「これから知り合いのお寺に行くけど、一緒に来る？」
「！！行く！！！」

縁ってすごい。



山の上の、小さなお寺。
夫婦と一緒にいったおかげで、大歓迎された。

「さあ、飲め！！」
大の苦手のバター茶を、お椀たっぷりに出された。
なんと半分飲んだところで、もっと飲めと注ぎ足される。
「ああ、逆タンタロス...」
そんな流れを何回か繰り返してようやく、御堂へ案内された。
チベット仏教のお寺の中を撮影できるのは初めてだったから
うきうきしていたのだけれど、
「まず、祈ってね☆」
と僧侶。
「...日本式でもいい？」
「だめ。チベット式」
イコールそれは、五体倒地。

海拔約3700メートルのラサで、五体倒地する信者を見ながら
「こんなところで五体倒地したら、うちらは一発で高山病だね～」
なんて会話をしていたことが、頭をよぎる。
香格里拉の海拔は約3300メートル。
でもまあ、4900メートル地点行っても平気だったし...？
自分の体質を信じて、五体倒地開始。

頭、口、胸の前で順に合掌した後、地べたに棒状に身体を投げ出す。
そこから速やかに起き上がって、また合掌して、の繰り返し。
やってみると結構キツいんだな、これが。

10回目ようやく、お許しがでた。
「ぜえ、ぜえ、シエ、謝謝...ぜえ、ぜえ」
症状は息切れのみ。
もはやヒマラヤに登らない限り、高山病にはならないんじゃないかって、
ちょっと自信がついた。笑



そして夫婦、僧侶ふたり、チベット犬1匹とともに下山。
バス停でさよならをし、私は別のお寺へ。





雲南のポタラ宮こと、松贊林寺。

ちょっと前のガイドブックには
"入場料30元、ただし2008年3月より50元に値上げ予定"
と書かれていたけれど。さらに値上げの、85元を請求された。
やっぱり、去年のラサ暴動の影響だろう。



意外と、ポタラ宮よりこのお寺の方が好き。
いままで行った聖地の中で一番、聖と俗の共存がうまくできてる気がして。

香格里拉の名前は伊達じゃなかった。
そう思ったことが嬉しかった。



しかもこのお寺、発電はソーラーパネル。
どうやら理想郷は、自然環境にも気を配るものらしい。

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.08.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年08月 アーカイブ

09.08.03

ユートピアとは。

[Tweet](#)

[Check](#)

香格里拉。
漢字で書くとなんのこっちゃっていう見た目ですが、
"シャングリラ"と言えばたいていの人はピンと来るんじゃないでしょうか。

シャングリラ。そう、つまりは理想郷。

理想郷の名を持つ街へやって来ました。





もともとは中甸という名称だったのを、
ジェームズ・ヒルトンの小説“失われた地平線”の中に登場する、
理想郷シャングリラのモデルはこの街だとして、2001年に改名したのです。

その真偽はともかく、シャングリラにするくらいなら
いっそ仏教においての理想郷、シャンバラにすれば良かったのに、と思わなくもありませんが、
それはさすがに...ってことなんですかね。



チベット民族が主体の街なこともあってか、ラサと似たものを感じたりも。



そして夜ご飯は松茸パーティ。



うーん、理想郷！

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.08.03 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)